

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570907840		
法人名	医療法人恵愛会		
事業所名	グループホーム仁愛		
所在地	秋田県鹿角市花輪字六月田78-5		
自己評価作成日	平成28年8月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究所		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成28年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院あるため、通院中の方、定期受診必要な方でも入居出来ます。受診には看護師が付添い援助いたします。2ユニットのグループホームです。それぞれを一つの家庭と考え共に支え合い、職員が入居所と生活を共にしていることを意識し、落ち着いた環境でゆっくりコミュニケーションをとり、共に生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体である病院が隣接しており、地域と共に支援の連携体制が構築されて利用者、家族に安心感をもたらしています。利用者の生活を守るという一貫した管理者のリーダーシップの下、職員一人ひとりが意識を高め、理念に沿ったケアができるよう日々努力されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	① 基本理念として掲げている、人としての尊厳の重視、一緒にのケアそしてケアされるケアについて、毎日唱和するだけの理念にならないようにしている。	時には家族にも理解と協力を求め、利用者一人ひとりと向き合っその人を理解することで理念に繋がる支援となるよう心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、ホームで行う行事等に自治会に参加して頂いている。気軽に立ち寄って頂ける雰囲気を大切にしています。	行事や避難訓練等、さまざまな場面で地域の協力が得られ、良好な関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	職場体験学習を受け入れ、中学生、高校生に認知症とは、認知症の方の生活対応について、知って頂くよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度会議を開催し、鹿角市、恵愛会、地域、家族会、ボランティア、の皆様に出席して頂き意見を聞き、設備の改善、サービスの向上に活かしている。	ホームの取り組みや課題に参加者が積極的に関わっており、サービスの向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、連帯を深め必要に応じて、ファックスで情報を頂いている。	包括支援センター主催の会議に毎月出席し、会議を通じて市の関係部署とも連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は出入り口、危険性を感じるため、ご家族様に説明し理解して頂き、玄関は施錠しているが職員は禁止事項を理解している。	寝たきりにさせておかない、車椅子に長時間座らせたままにしない等、利用者の状態をチェックし、安全に配慮しながら支援されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する資料で勉強し、回覧し情報共有を図り、防止に努めている。言葉等にも十分気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を利用している方はいないが、研修等(ケアマネ会議)から情報収集に努めているが、職員は理解としては不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書を提出し十分説明し、納得して頂き契約しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、家族会会長に参加して頂き、意見、要望を聞き、要望等を反映させるように日頃より、ご家族としっかりコミュニケーションを図るように努めている。意見箱も設置している。	家族会等を通じて意見や提案が出され、設備面での改善事例も多くあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	両棟の会議や、カンファレンスで意見等を出し合い、業務改善に繋げるように取り組んでいる。	会議は両ユニット合同で行われています。意見はあまり出ないものの、それぞれの利用者の情報を共有し、職員間の連携が図られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は法人全体の会議に参加し、情報共有すると共に向上心を持って働くことができるように、働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアの研修に職員を参加させる。介護福祉士かそれに準ずる知識と技術を持った職員をそろえるように、努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターのグループホーム連絡会へ、毎月参加し事例等の情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様の希望、要望、不安なことなどゆっくり聞いている。また事前にケアマネとご本人、ご家族の方が見学に来てくれるようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の希望を聴き、不安の解消に努めると共に、信頼関係が作れるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に共に生活させて頂いていることを意識し、職員だけでなく入居者様同士も支え合いを大切にしている。お互いが協働し生活している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告はお便りで個別に知らせ、変化があった場合にはそのつど、電話で詳しく報告し情報を共有している。面会の機会を多くし家族関係が途切れないように取り組んでいる。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の生活習慣を尊重し、継続的に交流が持てるように取り組んでいる。	家族の協力も得て、利用者の生活習慣や大切にしてきたことが継続できるように支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者様の性格等を把握し、トラブル等には十分に配慮している。入居者同士が自然な形で支え合い、生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様の許可を頂き病院に様子を見に行ったりしています。色々な相談して頂ける様に取り組んでいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望等を把握し、実現出来るように努めている。カンファレンスで検討している。	利用者の訴えや行動の背景にある思いを理解しながら対応されています。また、利用者個々の希望を生活の中に取り入れています	思いや意向を把握し、全ての職員が記録することによって情報の共有をしたり、介護計画に結びつける工夫を期待します。
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴等の把握に努め、ご家族様から情報収集するようにしている。何気ない会話から情報を得る事があり、職員間で共有している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活のリズムにあわせ、無理のない起床、臥床に努めて穏やかに過ごして頂いております。小さな動作などから身体状況や、認知症状況等の把握に努め、職員全体で情報共有するようにしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員で意見交換、カンファレンス、モニタリングを行い、介護計画に繋げている。情報や日々の気づきを取り入れ作成するように努めている。ご本人にとって何が必要か職員間でカンファレンスを行い、計画に取り入れている。	カンファレンスを行って職員の意見を聞き、介護計画が作成されています。見直しの際には家族に状況を説明し、要望を確認しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践状況を個々の記録に記載し、実践結果を申し送り状況を把握し、気づき等を計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事として5月から、10月まで外出や外食を取りいれ手いる。ホーム内の行事等には、地域の方が参加し入居者、家族、地域との交流を図っている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、ご家族が希望するかかりつけ医を確認継続できるようにしている。入居者様と関係を図り支援している。	利用者、家族の希望を大切にした支援が行われています。母体病院が隣接していることもあり、適切に対応できるよう取り組まれています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	両棟看護師を配置しており、異常の早期発見、対応はスムーズに行っている。変化が見られましたときなど母体が病院のため、すぐ受診することが出来る。情報は記録し、日誌にも記載して職員全員が情報を共有し、ケアに繋げている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時には情報提供の許可を得ているため、医療機関に詳しい情報提供し早期に退院できるように連絡を密にしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、医療連帯体制指針について文書で説明し、同意を得ている。ご家族様の希望を聞きホームで出来ることを説明し、希望を取りいれ支援に取り組んでいる。	母体病院の医師と連携し、可能な限りホームで生活できるよう支援されています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成している。母体が病院のため24時間対応できるし、相談も出来る。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防、地域住民、恵愛会職員の協力を得て、夜間想定した避難訓練を行なっている。水害想定訓練はまだ行ってない。	災害に応じた避難場所を設定しています。訓練は地域住民が協力して行われ、運営推進会議でも災害について話し合われています。	災害時に迅速な対応ができるよう避難経路の整備及び避難方法や避難のタイミングを検討し、訓練を積み重ねることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、声掛けに充分配慮して行うようにしている。自己決定出来るようにさりげないケアを心がけている。	利用者のプライドを傷つけず、混乱することのない話し方に配慮し、していただいたことには感謝の言葉をかけて利用者の気持ちを大切に支援が行われています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は答えを提供することなく、自らの思いを出せるような雰囲気作りを心がけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	穏やかな生活が送れるように、取り組んでいる。ご本人の気持ちを尊重し、出来る限り個性のある支援を心がけている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、清潔感に気をつけ、その人らしさが保てるようにしています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて、出来ることをして頂いている。食材で季節感を感じられるように、取り組んでいる。	献立検討会議で利用者の好みに合わせたものや季節のものが検討され、提供されています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて、食事量、形態等把握し工夫して提供している。個々の嗜好理解し支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力を把握し、必要に応じて援助し、口腔内の状況観察し清潔に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、身体能力に応じて支援している。個々の排泄パターンの把握に努めている。出来る限りトイレで排泄できる様に支援している。	全介助の方を含め、一人ひとりの状況に合った排泄用品を使用し、個々のパターンに応じた対応を検討されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、食材に気をつけ、適度な運動を取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分や、体調等に配慮し最低週2回程度の入浴を提供している。	利用者の体調や希望によって変更することもあります。週2回の入浴を目途に支援されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を積極的に取り入れ、生活リズムを確保する様に努めている。適度の運動を取り入れている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに整理し、いつでも確認できるようにしている。誤薬のないようにしっかり確認している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の出来ること、出来ないことを把握し自ら行えるように支援している。個人の能力を発揮して頂き、感謝の言葉を伝えている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事として月1度程のドライブ、外食を行ない戸外に出るきっかけを作り、気分転換、ストレス解消し、外からの刺激を受けられる様に取り組んでいる。	全員で出かけることは少なくなりましたが、職員が所用で外出する時に声をかけ、個別に対応できるように心がけています。家族が帰省した時には一緒に墓参りや外泊をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながら、少額の小遣いを持ち、自分で買い物をしている入居者様もおります。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時にお電話やお手紙は自由にできることを説明している。入居者様から、希望があれば対応している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を飾り、季節感、生活感が見られるような環境にするように努めています。	職員が自宅から持参した花が活けられ、季節が感じられる配慮が見られます。炬燵で昼寝される方もあり、自由に過ごせる場所を設定しています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士で過ごせるようにしている。食堂、廊下、渡り廊下などに、椅子やソファをおき、庭を眺めたり、ゆっくり過ごせる工夫をしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出きる限り自宅環境に近い環境として使って頂ける様に、ご家族様に協力して頂いています。寝具等は使いなれた物を持って来て、使用して頂いています。	利用者の性格に配慮した居室管理をされています。また、ポータブルトイレを使用している方は日中は収納スペースに保管し、排泄用品も目につかないようにされています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	前面バリアフリーに手すり設置し、トイレなどに目印を付けている。状況に合わせて、環境整備を行なっています。		